

平成30年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S07-03-01		
施設名	荒川清掃事務所				
所在地	町屋五丁目19番1号				
部課名	環境清掃部荒川清掃事務所				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)		
	建築	1947年	219,907	国・都	区債
	増改築①	1970年(旧館)			一般財源
	増改築②	1986年(新館)			
併設施設					
竣工年月日	昭和22年4月1日		常勤・非常勤	その他	
供用開始年月日	昭和22年4月1日	職員数	67人	14人(清掃R課)	
構造	RC造	階層	新館:地上3階	旧館:地上4階	
面積	敷地面積	1854.83㎡			
	延床面積	新館:728.15㎡ 旧館:1090.45㎡			
設置目的・経緯	区内廃棄物の発生抑制、再利用・資源化の促進及び適正処理 平成12年4月、都から特別区に清掃事業が移管				
関連部署	環境課・清掃リサイクル課				
根拠法令等 設置条例	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例等				
駐車場の状況	20台	バリアフリー	<input type="checkbox"/> エレベーター	<input type="checkbox"/> だれでもトイレ	
駐輪場の状況	62台	対応状況	<input type="checkbox"/> 点字ブロック	<input type="checkbox"/> スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	直営	—	期間	—	から	
事業内容	廃棄物の収集、運搬及び処分、庁舎建物の維持管理等					
対象者	一般区民、区内事業者					
運営時間等	運営時間	午前7時40分～午後4時25分				
	休日	日曜日、年末年始の指定日				
施設基本データ等	作業(開所)日数(日)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(見込み)
		310	313	312	310	309
	電気使用量(Kw)	93,380	88,388	89,114	89,293	-
	ガス使用量(㎡)	30,802	28,258	29,942	30,984	-
	水道使用量(㎡)	6,409	6,217	6,081	6,122	-
	二酸化炭素(CO2)排出量(t)	119	108	112	112	-
	指定管理に係る費用					
備考	電気と水道の使用量及び二酸化炭素(CO2)排出量は減少傾向にある。ガス使用量は、ほぼ横ばいの状態である。					

III 財務諸表

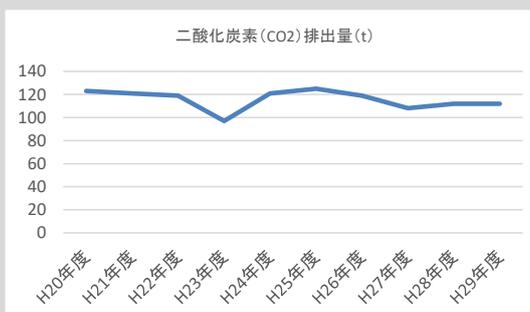
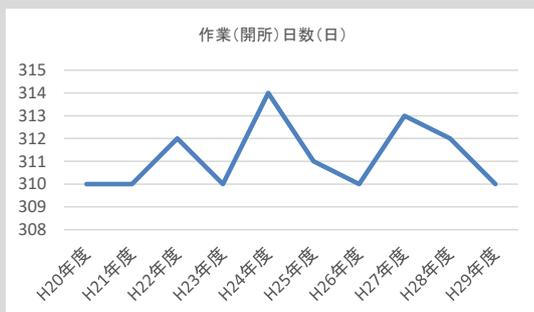
(単位:千円)

勘定科目		H28年度	H29年度	差額	勘定科目	H28年度	H29年度	差額
行政コスト計算書	給与関係費	572,428	546,512	▲ 25,916	地方税等	0	0	0
	物件費	23,495	22,095	▲ 1,400	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	10,538	1,602	▲ 8,936	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	131	132	1
	減価償却費	4,650	4,605	▲ 45	その他	114	112	▲ 2
	不納欠損・賞倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	245	244	▲ 1
	賞与・退職給与引当金繰入額	29,072	119,701	90,629	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 639,938	▲ 694,271	▲ 54,333
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	640,183	694,515	54,332	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 639,938	▲ 694,271	▲ 54,333
	特別費用(g)	0	108,173	108,173	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	▲ 108,173	▲ 108,173	当期収支差額(e)+(h)	▲ 639,938	▲ 802,444	▲ 162,506	
貸借対照表	流動資産				勘定科目	H28年度	H29年度	差額
	収入未済	0	0	0	流動負債	29,072	28,921	▲ 151
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	特別区債	0	0	0
	有形固定資産	476,148	385,587	▲ 90,561	賞与引当金	29,072	28,921	▲ 151
	土地	326,611	326,611	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物	219,907	241,917	22,010	固定負債	542,941	586,812	43,871
	建物減価償却累計額	▲ 70,370	▲ 182,942	▲ 112,572	特別区債	0	0	0
	工作物等	3,749	3,749	0	退職給与引当金	542,941	586,812	43,871
	工作物等減価償却累計額	▲ 3,749	▲ 3,749	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	572,013	615,733	43,720
建設仮勘定	0	0	0	正味財産	▲ 94,581	▲ 229,320	▲ 134,739	
その他の固定資産	1,284	826	▲ 458	正味財産の部合計	▲ 94,581	▲ 229,320	▲ 134,739	
資産の部合計	477,432	386,413	▲ 91,019	負債及び正味財産の部合計	477,432	386,413	▲ 91,019	
備考	行政費用の主要部分は、荒川清掃事務所に勤務する職員の人件費である。また、物件費の内訳は、荒川清掃事務所の庁舎管理に係る委託料のほか、庁舎管理に係る消耗品費や光熱水費等である。行政収入は、合計で244千円の収入があった。(ただし、南千住清掃車庫に関する経費を除く)							

指標		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	-	-	33	76.0	
	1㎡あたりコスト(円)	-	-	878,423	381,895	
備考	平成29年度は平成28年度に比べて、有形固定資産減価償却率(%)が大幅に上昇した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)						
目標指標	指標名・単位	目標値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(見込み)
		実績値					
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ● 現状維持	○ 民営化 ○ その他()	○ 他施設との統合	○ 廃止			
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無						
利用者・地域のニーズ							
現状・課題	<p>○施設の老朽化に伴い、施設修繕費が増加している。</p> <p>○不燃ごみ及び粗大ごみの資源化を進めるにあたり、施設内のスペースが限られていることから、選別作業を施設外で行う必要がある。</p> <p>○雇上作業員の待機・休憩場所については、近隣の路上駐車を防止するため、施設内で確保する必要がある。</p>						
課題に対する現時点での考え	<p>○公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な修繕を実施する。</p> <p>○金属系粗大ごみの資源化については施設内で選別作業を実施しているが、不燃ごみについては選別作業を含めた委託契約により実施している。今後、更なる資源化を進める場合には、不燃ごみと同様に選別作業を含めて委託していく必要がある。</p> <p>○エレベーターの設置が困難であり、来庁者の利便性向上を図る必要がある。</p>						
議会、利用者等からの意見							



平成30年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S07-03-02		
施設名	南千住清掃車庫				
所在地	南千住四丁目1番8号				
部課名	環境清掃部荒川清掃事務所				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)		
	建築	380,197	国・都	区債	一般財源
	増改築①				
	平成12年2月22日				
	増改築②				
併設施設					
竣工年月日	平成12年2月22日		常勤・非常勤	その他	
供用開始年月日	平成12年3月1日	職員数	9人		
構造	S造3階	階層	地上3階		
面積	敷地面積	1,900㎡			
	延床面積	管理棟: 994.80㎡	洗車場: 123.52㎡	㎡	
設置目的・経緯	廃棄物の収集・運搬及び処分作業自動車の管理運営等				
関連部署	環境課・清掃リサイクル課				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
設置条例	荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例等				
駐車場の状況	18台	バリアフリー	● エレベーター	● だれでもトイレ	
駐輪場の状況	4台	対応状況	● 点字ブロック	○ スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	直営	—	期間	—	から	
				—	まで	
事業内容	収集作業用自動車及び作業用具等の管理、庁舎建物の維持管理等					
対象者	一般区民・区内事業者					
運営時間等	運営時間	午前7時40分～午後4時25分				
	休日	日曜日、年末年始の指定日				
施設基本データ等	作業(開所)日数(日)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(見込み)
		310	313	312	310	309
	電気使用量(Kw)	93,232	91,427	94,284	92,579	-
	ガス使用量(㎡)	6,630	7,209	5,791	5,995	-
	水道使用量(㎡)	2,321	2,292	2,253	2,281	-
	二酸化炭素(CO2)排出量(t)	64	62	60	59	-
に指定管理に係る費用等						
備考	電気、ガス、水道の使用量及び二酸化炭素(CO2)排出量はおおむね減少傾向にある。					

III 財務諸表

(単位:千円)

		勘定科目	H28年度	H29年度	差額	勘定科目	H28年度	H29年度	差額	
行政コスト計算書	行政費用	給与関係費	67,668	68,710	1,042	地方税等	0	0	0	
		物件費	7,461	7,825	364	国庫支出金	0	0	0	
		維持補修費	801	857	56	都支出金	0	0	0	
		扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
		補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	56	56	0	
		減価償却費	12,546	12,546	0	その他	55	52	▲3	
		不納欠損・賞倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	111	108	▲3	
		賞与・退職給与引当金繰入額	3,437	15,049	11,612	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲91,802	▲104,879	▲13,077	
		その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
		行政費用合計(b)	91,913	104,987	13,074	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲91,802	▲104,879	▲13,077	
		特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	49	49	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	49	49	当期収支差額(e)+(h)	▲91,802	▲104,830	▲13,028			
貸借対照表	固定資産	勘定科目	H28年度	H29年度	差額	勘定科目	H28年度	H29年度	差額	
		流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債	3,437	3,636	199
		不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
		その他の流動資産	0	0	0	特別区債	0	0	0	
		有形固定資産	900,306	887,760	▲12,546	賞与引当金	3,437	3,636	199	
		土地	733,400	733,400	0	その他の流動負債	0	0	0	
		建物	380,197	380,197	0	固定負債	64,182	73,777	9,595	
		建物減価償却累計額	▲213,290	▲225,837	▲12,547	特別区債	0	0	0	
		工作物等	64,856	64,856	0	退職給与引当金	64,182	73,777	9,595	
		工作物等減価償却累計額	▲64,856	▲64,856	0	その他の固定負債	0	0	0	
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	67,619	77,413	9,794	
建設仮勘定	0	0	0	正味財産	832,687	820,096	▲12,591			
その他の固定資産	0	9,749	9,749	正味財産の部合計	832,687	820,096	▲12,591			
資産の部合計	900,306	897,509	▲2,797	負債及び正味財産の部合計	900,306	897,509	▲2,797			
備考	行政費用の主要部分は、南千住清掃車庫に勤務する職員の人件費である。また、物件費の内訳は、洗車排水施設保守点検委託、昇降機保守委託や清掃委託等の南千住清掃車庫の管理・運営に係る委託料のほか、光熱水費や消耗品費等である。行政収入は、合計で108千円の収入があった。(ただし、荒川清掃事務所に関する経費を除く)									

指標		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	-	-	63	65.3	
	1㎡あたりコスト(円)	-	-	90,386	93,879	
備考	平成29年度は平成28年度と比較して、有形固定資産減価償却率(%)がわずかに上昇した。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(見込み)
	目標値 実績値					
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無					
利用者・地域のニーズ						
現状・課題	○竣工から20年近く経っていることから、経年劣化に伴う施設修繕費が増加している。 ○直営清掃車の減少に伴い確保した駐車スペースを、雇上会社の清掃車両の待機・休憩場所として活用している。					
課題に対する現時点での考え	○公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な修繕を実施する。 ○荒川清掃事務所において雇上車両の増加が見込まれることから、一部車両の待機・休憩場所として、南千住清掃車庫の有効活用を検討する。					
議会、利用者等からの意見						

